

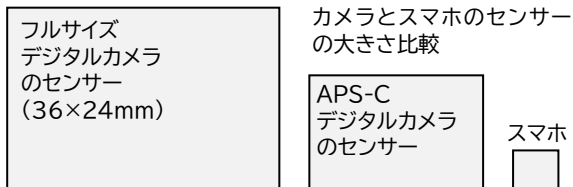
スマホのカメラの縦横比は「4：3」で！

Androidのカメラの縦横比は、初期設定では「16：9」だけど、プリントするなら「4：3」で撮るべき…という話

1. コンテストに出すなら、スマホよりカメラの方がいいけど…

そもそも、コンテストに応募する作品をスマートフォン（＝ iPhone や Android 携帯、以下「スマホ」）で撮ることは推奨されません。スマホで撮った写真は、大きなプリントに伸ばすと「あら」が出るからです。

スマホは、カメラと比べて、画素数は同じくらいでも（例えば1200万画素）、光を受け取るセンサー自体が小さいので（右図）、画素1個あたりの面積も小さくなり、撮れる画像がどうしても粗くなります。これをスマホの画面で見るだけなら全く問題はないのですが、写真用紙にプリントすると「あら」が目立つよう



になります。それでもA4サイズくらいであればそれほど気になりませんが、一次審査を通過して全紙サイズ（長辺が約50cm）に伸ばすと、「あら」も大きくなるのです。そのような訳で、「コンテストに応募するかも！」という写真は、できればスマホではなくカメラで撮ることをおすすめします。

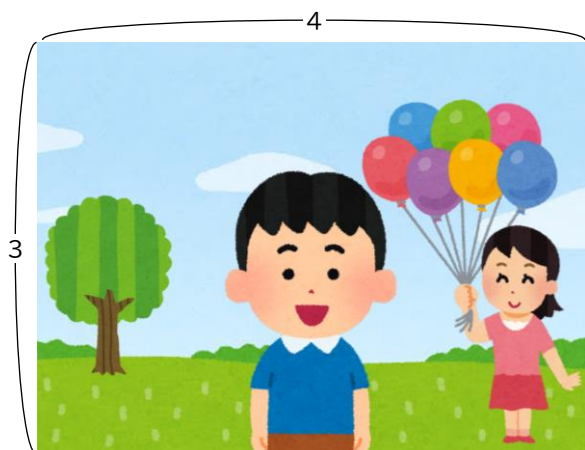
しかし、面白い被写体に出会った時にカメラが手元にあるとは限りません。そんな時はスマホで撮るしかありませんが、その際に気をつけたいのが「縦横比」です。

※ 今回は「横長」の写真の撮った場合で説明していますが、「縦長」写真の場合も同様に考えてください。

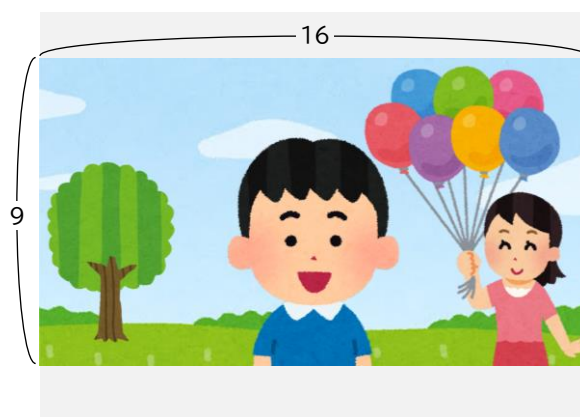
2. 「4：3」と「16：9」

スマホのカメラで写真を撮る際には、写真の縦横比を「16：9」、「4：3」、「1：1（スクエア）」などから選ぶことができます。初期設定は、iPhoneの場合は「4：3モード」で、Androidの場合は「16：9モード」です（最近の機種では、さらに細長のものもあるようですが、ここでは便宜上「16：9」としておきます）。

スマホのカメラのセンサーの縦横比は「4：3」です。したがって、センサーを隅から隅まで全て使うと、左のような写真が撮れます。そして、カメラの設定を「4：3モード」にして撮影すると、この画像が保存されます。



縦横比「4：3」で撮影した画像



縦横比「16：9」で撮影した画像（上下が切られる）

一方、カメラの設定を「16：9モード」にして撮影すると、撮れた画像の上下を切り捨てて、右のような細長い画像が保存されます。意外かも知れませんが、実は「16：9モード」は、「広い範囲を撮れる」のではなく、「本来撮れるはずの範囲のうち、上下の部分を持って捨てるだけ」という設定なのです。

どうして、そんな設定になっているかというと、スマホ画面の縦横比が「16：9」だからです。「4：3モード」で撮った写真をスマホ画面で表示すると、左右に余白ができてしまいます（iPhoneの場合は、実際にそうなっています）。「せっかくのワイド画面を有効活用しないともったいない」ということなのでしょう（Androidの場合）。

（次のページに続く）



縦横比「4：3」で撮影した画像



縦横比「16：9」で撮影した画像

3. 「16：9」の写真を、A4サイズにプリントすると…

写真の縦横比が「16：9」であっても、スマホの画面で見ると分には全く問題ありません。ところが、この「16：9」の写真を実際にプリントする場合には、困ったことになってしまいます。

高文連のコンテストでは、一次審査に提出するプリントのサイズは「A4」（297mm×210mm）に決められています。このA4サイズの用紙いっぱいにプリント（＝フチなし印刷）すると、細長い「16：9」の写真はこの中に入りきらず、左右の部分がかなり切られてしまうのです。これでは撮影したときには「別の写真」になってしまいます。「切られてもいいけど？」などと、軽く考えてはいけません。「作品」としての写真を撮るときは、そこを意識してください。

なお、「4：3」の写真をA4サイズにフチなし印刷すると、こちらは上下が少しだけ切られてしまいますが、「16：9」の写真の切られ方に比べれば、大したことはありません。



「4：3」写真をA4用紙にプリント（フチなし）
（上下が少し切られる）



「16：9」の写真をA4用紙にプリント（フチなし）
（左右がかなり切られる）

これを回避するため、用紙いっぱいにプリントせず、写真の周囲に白いフチができるようにプリントすれば、写真が切られることはありません。撮影したときにスマホ画面に見えていた範囲が全部プリントされるようになります。



「4：3」写真をA4用紙にプリント（フチあり）



「16：9」の写真をA4用紙にプリント（フチあり）

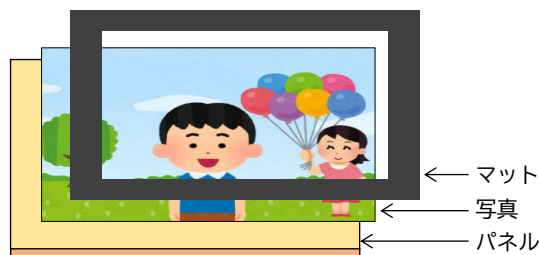
A4プリントまでであれば、これで問題ありません。困るのは、一次審査を通過した場合です。

（次のページに続く）

4. 「16：9」の写真を、全紙パネルにすると…

一次審査を通過した作品は二次審査に進むことになります。そして、二次審査に提出する作品は、そのまま美術館に展示するため、「全紙」と呼ばれるサイズの「マットパネル」という形で作るになっています。

マットパネルは、一番下に木製のパネル、その上に写真プリント、さらにその上に「マット」（カタカナの「ロ」の字の形をした黒い厚紙）を乗せた構造になっています。マットが単なる厚紙だと、その下の写真プリントは見えなくなってしまいますが、マットには四角い“窓”が開けられているので、その窓を通して写真プリントが表示されるようになっています。市販されている全紙パネルのマットには、「定型」と「ノートリ」という2種類があり、“窓”の内寸の縦横比が異なります。ユーザーは、この2種類のうち、自分の写真の縦横比に近い方を選ぶことになります。



	マットの“窓”の内寸と縦横比		使う写真
定 型	520 × 410mm	4 : 3.15	「4：3」の写真（コンパクトデジカメやマイクロフォーサーズ）
ノートリ	535 × 345mm	3 : 1.94	「3：2」の写真（多くのデジタル一眼カメラ）

スマホの「4：3モード」で撮った写真であれば、「定型」マットを選ぶことで、ほぼ全範囲を表示させることができます（実際は、作業上の余裕を持たせるために周囲が少しずつ切られます）。

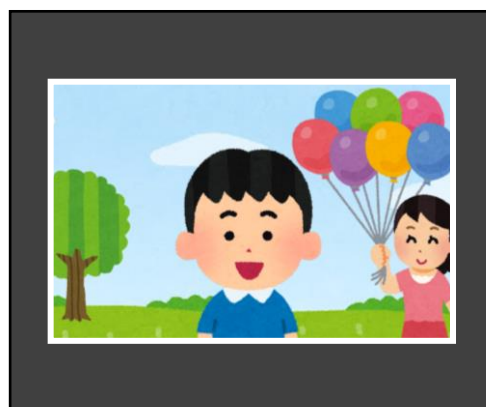
これに対して、「16：9モード」で撮った写真の場合、内寸の縦横比が「16：9」のマットはありませんので、どちらかと言えば縦横比に近い「ノートリ」マットを選ぶしかなく、A4プリントにフチなし印刷をしたときほどではありませんが、どうしても左右が切られてしまいます。

もし、一次審査の際に「良い」と評価されていた部分（今回の例では、例えば「女の子の左手」としましょう）が、二次審査では切れていたとしたら、「一次のときは良かったのに、もったいないなあ…」ということになってしまうのです。

ただし、マットを自作（または業者に特注）できるのであれば、内寸が「16：9」のマットを作れば問題ありません。マットの窓を切るためには専用の道具が必要で、作業もかなり難しいですが、不可能ではありません。



「4：3」写真を全紙「定型」マットに
（左右が少し切られる）



「16：9」の写真を全紙「ノートリ」マットに
（左右がかなり切られる）

ということで、Android 端末を使っている人へのアドバイスです。スマホで見ただけなら「16：9」のまま構いませんが、「コンテストに応募しよう」という写真を撮るときは、カメラの設定を「4：3」に変更しましょう。iPhone の場合は、初期設定の「4：3」のまま使えばOKです。

（最初に書いたように、できれば、スマホではなくカメラを使った方がいいのですが…）

2022年9月作成

福岡県高等学校芸術・文化連盟 写真専門部